

## 修 士 論 文 の 和 文 要 旨

研究科・専攻	大学院電気通信学研究科 人間コミュニケーション学専攻 博士前期課程		
氏 名	苗 琳娟	学籍番号	0836024
論 文 題 目	動画編集システムを用いるメディアリテラシーE-learning プログラムの開発		
<p>要 旨</p> <p>メディアリテラシーは メディアを通して流れる情報を「読み・書き」する能力・スキルを意味する。とくにデジタルメディアやネットワークメディアなど、メディアが著しく高度化した現在では、市民にとって必須の能力・スキルとなっており、世界的にさまざまな年代に対してその教育が実践されているが、教員・教材の不足、教育方法の不統一などの問題がある。e-learning はコンピュータやネットワークなどを利用して教育を行うことで、教育を時間・空間の制約から解放したり、教材や教育方法の共有化により、教育の高度化、低コスト化をはかったりできる利点があり、メディアリテラシー教育の問題点の一部を解決することができる可能性がある。また、メディアリテラシー教育では多くのメディアコンテンツを事例として扱うが、web のプラットフォーム上では動画やインタラクティブメディアなどの高度コンテンツを扱うこともできる。</p> <p>本研究は、メディアリテラシーを e-learning で実施するにあたって、動画ストリーミング配信のタイムライン制御による仮想的な「動画編集システム」を組み込んで教材及び教材提供システムを構築するものである。Web 上で仮想的に動画編集をおこなうシステムは必ずしも新規ではないが、メディアリテラシー教育に特化したかたちでこれを構築することは新規であり、また、web 上でインタラクティブに動画編集をすることのできるシステムを生かして、動画の閲覧だけでなく制作シミュレーションまでおこなうことのできるメディアリテラシー教育教材を構築することも新規である。制作シミュレーションは、メディアの「書き」に相当する部分であり、これを系統的に可能にすることは、メディアリテラシー教育の e-learning 化において非常に重要である。</p> <p>この目的を実現するため、教材は技術的に4つの階層に分かれている：1)章とセクションのインデックス、2)各セクションのテキスト教材、3)各セクションの視覚教材（動画を含む）、4)動画を使ったテスト及び実習（動画編集システム）。また教育内容は ADDIE モデルにもとづいて設計され、レッスン、テスト、実習という3つの階層をもっている。レッスンの部分はテキスト、画像とビデオを使用して TV、映画と写真の分類と仕組みを説明する。テストの部分は3つオプションの選択項目で 学習者がメディア知識や情報処理プロセスを把握しているかを確認する。最後に、学習者は動画編集システムを使って自分でメディアコンテンツを作成できる。</p> <p>システム及び教材は、動作実験と簡単な評価実験をおこない、有効性が示唆された。今後はさらに緻密な評価実験をおこない、教育効果の把握につとめたい。</p>			